

## 平成27年度 社会福祉法人市貝町社会福祉協議会事業報告

### 【報告】

平成27年度市貝町社会福祉協議会事業においては、生活困窮者支援事業、権利擁護及び日常生活自立支援事業を重点的に推進し、その成果や諸課題が明らかになった。

1 福祉サービス事業
<b>在宅福祉サービス</b>
1) 配食サービス事業 ひとり暮らしの高齢者及び高齢者世帯に、定期的な訪問による食事の提供により、健康管理及び安否確認を行った。  実施回数 52回 (1回 平均41名利用 最大配達数50名) 延べ配達数 2,149食 調理ボランティア 延べ270名 運転ボランティア延べ 186名
2) 傾聴ボランティア派遣事業 ひとり暮らし高齢者世帯宅への傾聴ボランティア活動者を派遣し、傾聴活動から利用者の不安や悩みなどを把握した。  派遣毎月6世帯 傾聴ボランティア144名が活動
3) 日常生活用具貸与事業 車イス・介護用ベット・入浴用チェア等無料貸出を行った。  車イス貸出数 7台 (病院への通院、休日の外出時等の貸出が多かった) ベット貸出数 2台
<b>介護予防事業</b>
1) 生きがい対応型デイサービス事業 60歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、社会的孤立の解消と自立生活の助長及び要介護状態予防のため、いきいきサロンを開催した。  サロン開催数 17回 延べ利用者数 350名 (1回平均20名の参加) 送迎ボランティア活動数 延べ46名
2) 老人クラブ友愛活動 自治公民館内で単位クラブが主催するサロン事業へ、保健師等を講師に招き健康講話や健康体操や、地域の中で住民を孤立させない活動を実施した。  5クラブ実施 延べ121名参加

### 3) 高齢者健康運動事業

65歳以上の方を対象とした、健康ウォーキングを地域の企業と連携し実施する。

芳賀カントリークラブ、茂木警察署、市貝町シルバードライバークラブ（いちかいシニアアクティブクラブ）が主催者となり、シニア世代の町民の方を対象に実施

実施回数 2回（内1回天候不良のため中止）

参加者 89名参加

## 青少年福祉事業

### 1) 放課後児童健全育成事業

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校児童を対象に生活指導を行い、児童の健全育成を図ることを目的に実施した。

実施学区 市貝小学校

対象学年 1年生～6年生

開所日数 279日

利用児童数 延べ6,766名

利用傾向 3年生までは一定の利用数はあるが、4年生からは、部活動等をはじめ児童などもいるため、高学年児童はスポット利用や長期休暇中の利用のみに切り替える世帯が多い

## 2 権利擁護・自立支援事業

### 1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障害者の方々が利用契約型福祉社会の中で、社会的に不利益を被らないよう、権利を擁護し地域で安心して自立した生活が送れるよう支援を行った。

#### ①福祉サービスの利用援助

2名支援し、2名が福祉サービス（施設入所）を利用した

#### ②日常的金銭管理サービス

8名利用（月3回支援者2名 月2回支援者4名 月1回支援者2名）

#### ③書類等預かりサービス

マイナンバー関係書類 2件

#### ④日常生活の見守り

金銭管理や生活管理等の見守り利用者3名（高齢者1名 知的障害者2名）

### 2) 日常生活自立支援員の充実

生活支援員の充実を図るため、基幹社協（真岡社協）と協議し増員を図った。

新規登録 2名（社会福祉協議会内 全地区担当として2名）

基幹社協との協議より小貝地区については、現状利用者が居ないため配置は出来ない

### 3) 権利擁護の普及・啓発活動

日常生活自立支援事業・成年後見制度・法人後見制度についての啓発活動及び利用環境整備を出前講座で実施した

地域のシニアクラブ2クラブをモデルエリアに指定し、日常生活自立支援事業の制度説明をし、成年後見制度のパンフレットを配付する。

### 4) 生活福祉資金貸付事業（県社協委託事業）

低所得者・日常生活全般に困難を抱えている世帯に対し、継続的な相談支援と併せ生活費及び一時的資金の貸付を行い、現在貸付中世帯には償還相談と指導を訪問し行った。

相談件数 19件

申請件数 1件（教育支援資金） 承認件数 1件（入学支度費 151,000円）

償還相談 3件（緊急小口資金） 償還再開 1件

償還指導 5回（教育支援資金貸付世帯 3世帯）

申請者傾向 慢性的な生活苦の状況下でも様々な支援を受けながら、小学校・中学校（義務教育）は卒業できるも、高校の進学に伴うまとまった支出（特に制服代）が捻出できないとの相談が増えてきている。

公立高校入学費用の平均 男子 13万 女子 20万

女子の入学費が高額な理由に、制服の夏冬用のデザインの違いがある。

### 5) セーフティーネット事業

日常生活全般において、一時的に困窮している状態の世帯に対し、生活の維持が継続できるよう支援した

①町社会福祉協議会 小口資金

申請件数 11件 承認件数 10件

貸付総額 207,002円（内30,000円未償還 6月返済予定）

②町社会福祉協議会 緊急一時支援事業（フードバンク）

申請件数 15世帯 支給食数 136日分

寄付件数 7件 寄付物資 玄米180kg 野菜 オムツ 衣類

セーフティーネット事業については、複数回利用する世帯が多い傾向にあった。いずれの世帯も慢性的な生活困窮の状況にある。2回目の利用相談時は家計相談を実施したのち支給をしてきたが、公的給付等及び支援制度を充てにして生計を立てている世帯が多いため、月の収入より支出が多い状況になってしまっている。数値とグラフによる数字の可視化し、説明することで家計の現状を示すことが可能となる。また、一人1台の携帯電話を持たせることも、家計を圧迫する要因になっている。

### 3 ボランティア・住民活動の支援 支援者の育成、強化事業

#### 1) ボランティアセンターの機能充実

すべての町民がボランティア活動に関心を深め、活動への参画の促進を図るためのフロアを設け、NPOや住民活動情報を発信し活動へ参加する環境の整備した

栃木県福祉振興基金（栃の実基金）を活用し、保健福祉センターロビーにボランティア活動情報版を整備し、町内と県内外の活動情報を掲示した。NPO団体、市民活動団体、雇用促進事業団体が掲示板を利用している。

#### 2) ボランティア連絡協議会の運営

ボランティアの登録や受付を行い、支援を必要とする人と活動を希望する人の調整を行うと共に、既存ボランティア団体への資質向上の研修会の実施

ボランティア登録状況 13団体 238名

(内個人ボランティア5名 町外登録ボランティア3団体 13名)

研修事業については、ボランティア活動者のエリアの社会資源マップと要支援者マップを作成し、ボランティア活動者同士のつながりと地域資源や、要支援者になりうる可能性がある世帯などの情報が短時間でマップに起こされた。

#### 3) ボランティア活動助成事業

共同募金や各種助成金を活用し、住民活動及びボランティア活動の推進に努め、活動機会の創出をした。

平成27年度に、事務局及び市民活動団体役員と協議し、公募型事業を実施するための基礎づくりを行い、平成28年度に事業を実施する運びとなった。

#### 4) 災害ボランティアセンター機能の充実

有事の際の、福祉避難所機能及びボランティアセンター運営機能が果たせるよう、食糧の備蓄及び機材整備を行い、県内外の災害情報をホームページで発信し、災害時活動の研修会を開始する。

社会福祉協議会に、災害時備蓄品及び資材の整備をした。また、ホームページに災害支援情報を載せるページも作った。

9月の豪雨災害時は、町防災メールを活用し被災地（栃木市・鹿沼市）へボランティアアバスを運行し、延べ4日間 21名が災害ボランティア活動に参加した。

### 4 地域福祉活動推進事業

#### 福祉教育の推進・充実

##### 1) 児童向け福祉教育の実施（共同募金助成事業・県社会福祉協議会モデル事業）

町内小学校の4学年総合的な学習の時間で行われる、福祉理解学習において担当教

師、企業、授業プログラムを共同で立案し、講師の派遣調整を行い町内全小学校で実施した。社会福祉法人の地域貢献と地域資源の活用しながら事業を実施した。

**市貝小学校 3回 講師 アクセシブル・ラボ 大塚 訓平氏**

27.11/18 事前学習（市貝小体育館）32名

車イスの機能及び使いかについて 建物とアプローチについて

27.11/24 アクセシブルな福祉 31名

アクセシブルな福祉 操作しよう車イス介助のコツ 駐車区画について

28.1/25 校外福祉学習（道の駅） 33名

多機能トイレと障害者等用駐車場について パーソナルモビリティについて

**小貝小学校 2回 講師 アクセシブル・ラボ 大塚 訓平氏**

28.2/2 事前学習（小貝小エントランス） 12名

車イスの機能及び使い方について 建物とアプローチについて

28.2/4 やってみようボランティア（小貝小体育館 外周） 15名

アクセシブルな福祉 操作しよう車イス知ってみよう介助のコツ

みんなで考えよう駐車区画

**赤羽小学校 2回 講師 市貝町身体障害者福祉会 副会長 小堀 謙介 氏  
会員 直井 一男 氏**

27.12/15 私たちにできること（赤羽小学校体育館） 40名

障害者にとっての障害について 高齢者とお年寄について

疑似体験通して出来ることの理解

車イスを使ってみよう（車イスを利用して行程の傾斜や段差を調査しよう）

28.3/8 障害者スポーツを体験しよう 参加児童40名 ボランティア4名

障害者スポーツ（卓球バレー・コントロールアタック）

2) 中学生サマーボランティア福祉学習（未実施）

中学生対象のサマーボランティアスクールの中で、福祉理解学習のプログラム立案及び実施

生涯学習課において今年度は事業内容の見直しを行ったため、社協への依頼は無し

3) 高校生ボランティア活動への支援

町内高校生サークルの事業支援及び、企業との共同企画の立案及びイベント事業の実施をした。

町内JLCクラブ会員へ協力し町内高校生活動を推進した。活動自体に高校生の主体性を持たせるために、様々な関係者に協力をいただきながら意見集約等のスキルを習得

する学習も行う。地域資源活用のためにも、町内のカフェと連携して加工食品等をつくり販売し自主運営の資金調達等も行い、活動資金で図書館に子ども達へのCDの寄贈を行う。9月の豪雨災害時には、ボランティアとして被災地での支援活動を行う。

#### 4) 福祉教育実施校への助成（共同募金助成事業）

人材育成事業でもある、福祉教育を実施した学校への助成

福祉共育を実施した協力校（市貝・小貝・赤羽）3校に、福祉活動費用を助成した。

#### 5) 住民対象の福祉教育の実施及びプログラムの共同開発

各分野の専門的知識を持つ住民の方、地域福祉を推進する内容のプログラムを開発し、住民活動を推進するための地域向け出前福祉講座の実施

障害者福祉プログラムの立案のため、障害者団体及び企業関係者と連携し「地域における障害者福祉向上プログラム」を立案する。内容については、「障害者等用の駐車場の在り方」について

### 社会参画の促進

#### 1) 老人クラブ支援の充実

単位老人クラブが実施する地域相互支援活動のサポートとともに、会員増加を図り、地域活動組織の充実強化をした。

団体名をシニアアクティブクラブに変更し、会名称での会員加入への抵抗を減らした。「奉仕・友愛・健康」を主要事業として実施し、特に単位クラブ自治会の公民館の有効活用（地域サロン活動）に取り組むよう支援する。

シニアクラブ未設立地域への積極的なPR活動を行い、自治会の総会時などに設立についての説明も行い、平成27年度末時点で会員数の増加に繋がった。後期高齢者で運営していたクラブが解散する。

新規設立クラブ 2クラブ（新規設立 上根 再組織化 大久保）

解散クラブ 1クラブ（役員の成り手のがいないため）

会員数 610名（69名増加）

視察研修の受け入れ（市貝社協モデル地区 石下さくら会集会エリアへの視察研修）

宇都宮市御幸ヶ原地区社会福祉協議会

日光市老人クラブ連合会

#### 2) 社会奉仕活動の推進

各団体で実施している社会奉仕活動を支援し、町民一人ひとりが社会奉仕運動に取り組む機会の創出

①多世代交流事業の推進

市塙地区 市貝小学校1、2年生対象 昔遊び体験 (3クラブ協力)  
市貝小学校6年生対象 戦争体験講話 (1クラブ協力)  
赤羽地区 赤羽小学校1、2年生対象 昔遊び体験 (1クラブ協力)

②町内小中学校労力奉仕・緑化運動の推進

市塙地区 市貝小学校労力奉仕(2回) 24名  
小貝地区 小貝小学校労力奉仕(1回) 7名  
赤羽地区 赤羽小学校労力奉仕(2回) 12名  
全地区 市貝中学校労力奉仕(3回) 90名

③福祉施設ボランティア活動の推進

市塙地区 福祉施設慰問活動 (2回/年)  
赤羽地区 福祉施設慰問活動 (1回/年)

3) 障害者福祉推進

町身体障害者福祉会・ひまわり会・支援ボランティアと協働で、各種事業を実施した。

①障害者スポーツ教室の開催

27.6/6 町障害者スポーツ教室の実施(卓球バレー・フライングディスク)

②福祉学習への協力(学校関係)

28.3/8 赤羽小学校福祉共育での障害者スポーツの講師(身体障害者福祉会2名参加)

③福祉フェスティバルの開催

未実施

④ふれあい交流事業の実施

28.1/29 高齢者、障害者を招待してのレクリエーション事業の実施 50名参加

⑤心身障害児者レクリエーション事業(県補助事業)

宿泊訓練事業 情報交換会事業 那須・塩原方面 20名参加

⑥心身障害児者スポーツ事業(県補助事業)

茂木町・益子町・市貝町の育成会で合同実施 14名参加

⑦障害者の居場所づくり事業

旧小貝中央小学校において、毎月日曜日に障害者の居場所づくり事業の実施

実施回数 11回

参加者数 97名(障害者述べ 76名 保護者21名)

支援者数 43名(ボランティア述べ 43名)

4) 福祉教育サポーターの推進(共同募金助成金事業)

町民の福祉についての理解向上のため、各種養成講座を開催し支援サポーターとして登録、ボランティア活動者の増加のために各種講座を実施した。

①傾聴ボランティア養成講座

講師 話しの聴き方教室 傾聴ハピネス代表 渡邊 純子氏

28.2/12 『話の聴き方！！傾聴ってなに』 9：30～15：30 19名受講

28.2/19 『実践に向けた演習 傾聴を生かした生活』 9：30～15：30 20名受講

ソーシャルサポーター認定書19名 ボランティア登録者数 17名

②はじめての手話 ミニ入門講座

講師 聾講師 野沢 通良氏 聴講師 小野 節子氏

27.11/10 第1回目 19：00～21：00 9名受講

27.11/17 第2回目 19：00～21：00 10名受講

27.11/24 第3回目 19：00～21：00 9名受講

ソーシャルサポーター（聴覚障害者理解）10名発行

講座受講者で1月に手話サークル団体を設立する。（毎月練習会）

③エンディングノート描き方講座

講師 話しの聴き方教室 傾聴ハピネス代表 渡邊 純子氏

28.2/26 『自分の「想い」を見つめ直すエンディングノート』9：30～12：30 15名

28.3/1 『これからの自分の「生き方」と「在り方」』13：00～15：30 16名

超高齢社会において、人生の終章を見つめ直し自分らしさをもう一度考えなおしてもらうため、新規事業として実施した。終章期を実りある生活を送るために、家族との関わり方や地域との関わり方を見直すきっかけになったとの意見が多くあった。

④防災・安全法訓練講座

講師 日赤栃木県支部幼児安全法主任指導員 佐藤 栄子氏

27.7/15 『赤十字幼児安全法講習会』 10：00～11：30 19名参加

子育てネットはばたき、市塙保育所（子育て支援センター）で参加家族の託児をする。幼児のAED使用法、心肺蘇生法、ケガや誤飲時の処置について実技を交えての講習会の実施しつつ、子育て世代の保護者同士の繋がりづくりも行う。

⑤町民が望む福祉講座調査（アンケート調査）

社会福祉協議会が開催する各種養成講座の調査を行うため、福祉活動計画のアンケート調査に、町民が望む講座の希望調査を行う。40～50代の参加を多くするために学校に依頼し、子育て世代向けに聞き取りを行う。無作為抽出 1,200名 回答数 610名

5) シニア世代向け講習事業の充実

シニア世代を対象とし、趣味づくり活動（仲間作り）を通して自治会活動を推進していく講座の開催



①大人のボランティア講座

単位クラブ活動の中で、高齢者向けのレクリエーション事業の実施（年2回）  
「シニア世代の7つの喪失を補う活動」「健康寿命と健康体操」

## 5 運営体制の充実強化

### 1) 理事会・評議員会の開催

法人の決定機関において、重要項目の協議を行い社会的包括に向けた 事業推進及び法人運営の実施

#### 理事会

第1回 平成27年5月22日 9:30~10:40

議案第1号 平成26年度市貝町社会福祉協議会事業報告について

議案第2号 平成26年度市貝町社会福祉協議会決算について

議案第3号 平成27年度市貝町社会福祉協議会補正予算（案）について

議案第4号 市貝町社会福祉協議会定款施行細則の一部改正（案）について

議案第5号 評議員の選任同意について

第2回 平成28年3月25日 9:55~11:30

議案第1号 平成28年度市貝町社会福祉協議会事業計画（案）について

議案第2号 平成28年度市貝町社会福祉協議会予算（案）について

議案第3号 市貝町社会福祉協議会特定個人情報取扱規程（案）の制定について

議案第4号 市貝町社会福祉協議会定款施行細則の一部改正（案）について

議案第5号 市貝町社会福祉協議会嘱託職員就業規則の一部改正（案）について

議案第6号 市貝町社会福祉協議会常勤嘱託職員給与規程の一部改正（案）について

議案第7号 市貝町社会福祉協議会小口資金貸付規定の一部改正（案）について

議案第8号 評議員の選任同意について

#### 評議員会

第1回 平成27年5月25日 13:30~14:40

議案第1号 平成26年度市貝町社会福祉協議会事業報告について

議案第2号 平成26年度市貝町社会福祉協議会決算について

議案第3号 平成27年度市貝町社会福祉協議会補正予算（案）について

議案第4号 市貝町社会福祉協議会定款施行細則の一部改正（案）について

議案第5号 理事の選任について

第2回 平成28年3月28日 10:00~10:50

議案第1号 平成28年度市貝町社会福祉協議会事業計画（案）について

- 議案第2号 平成28年度市貝町社会福祉協議会予算(案)について
- 議案第3号 市貝町社会福祉協議会特定個人情報取扱規程(案)の制定について
- 議案第4号 市貝町社会福祉協議会定款施行細則の一部改正(案)について
- 議案第5号 市貝町社会福祉協議会嘱託職員就業規則の一部改正(案)について
- 議案第6号 市貝町社会福祉協議会常勤嘱託職員給与規程の一部改正(案)について
- 議案第7号 市貝町社会福祉協議会小口資金貸付規定の一部改正(案)について

## 2) 経営の透明性の向上

事業周知、財務諸表、補助金等の情報をホームページにて開示した。

## 3) コミュニティーソーシャルワーカー(CSW)の配置

生活困窮者自立支援法の施行に伴い、総合相談窓口事業の対応能力向上のためCSWの配置をした。

地域福祉研究所が主催するコミュニティソーシャルワーカー養成講座を職員に受講させ、総合相談窓口担当として1名のCSWを事務所に常駐させている。

27.7/11～7/12 CSW養成講座(基礎編)

28.3/5～3/6 CSW養成講座(実務者編)

## 4) 情報発信

社協広報誌・ホームページ・町行事等で各種情報を発信した。

### ①社協だより

年3回 各号3,000部印刷 公共施設に設置

### ②ホームページ等のWeb啓発の強化

社協だより、各種事業の発信、災害関係情報発信、情報開示

### ③町内各種イベントでの啓発

27.11/22 町民祭へのブース出展(社協・日赤・共同募金PR)

28.1/23 図書館まつりへのブース出展(社協・共同募金PR)

### ④町政だよりの活用

町民向け事業の広報PR

## 5) 自主財源の確保

自主財源の確保のため、会費制度の周知や各種モデル事業などへ積極的に応募し、複数年指定の事業を受託する。

### ①社会福祉協議会会員制度の充実

【強化月間】 4月1日～5月31日(賛助会費・特別会費)

7月1日～7月31日(普通会費)

【平成27年度会費実績】

普通会費 1,493,600円(87自治会 2,481戸)  
特別会費 557,000円(155名)  
賛助会費 440,000円(44社)

②市貝町地域福祉振興基金「すぎのこ基金」の充実

【強化月間】 11月1日～12月31日

個別寄付 497,200円(87自治会 2,486戸)  
一般寄付 152,715円

③市貝町地域福祉振興基金ボランティア協力基金の推進

市貝町ボランティア連絡協議会 芝ざくらまつり益金寄付 100,000円  
福祉チャリティーゴルフ寄付 72,410円

④福祉事業参入への検討

介護保険事業及び障害者福祉事業の調査活動を行い、各種研修事業及び報告会等へ参加をした。

⑤モデル事業及び委託事業の受託

学童・生徒のボランティア活動普及モデル事業	300,000円
ボランティア活動振興事業	200,000円
地域福祉推進事業	350,000円
災害支援活動事業	200,000円

6) 地域福祉活動計画の策定

地域福祉に関するアンケートの実施 1,200通発送 回収610通  
現役世代の意見を多く集約するため、学校に協力を求め保護者充てに通知を発送する。  
アドバイザーとの打合せ 2回

7) 善意寄付事業の推進

町民より寄付のあった金品や物品を、日常生活に支障をきたしている方、福祉施設、学校等へ寄贈した。

## 6 各種相談事業の実施

1) 総合相談事業の充実(生活困窮事業)

町民の抱える生活・福祉問題等様々な相談に応じ、必要な支援に繋げられる相談窓口を開設した。総合相談として受け付けることで、相談者の状態等を考慮した上で、家計支援や寄り添い支援を行った。また、身近な場所で相談がうけることができるよう、モデル地区のサロン活動(公民館活動)の中で出張相談として月1回実施した。

心配ごと相談と連携し、ワーカーが積極的に相談に関わることで、解決に結びつく相談も多くなった。ただし、財産管理や土地境界に関する相談は、司法機関への相談が必要になるケースが多い。

**【総合相談支援実績】**

(高齢者相談支援) ※ 臨時給付金などの相談対応数は除く

生活困窮相談支援	11件
単身高齢者問題相談支援	18件
虐待相談支援	3件
財産整理相談	3件
その他の相談	2件
(障害者相談支援)	
複合世帯相談支援	42件

**精神障害**

生活相談支援	3件
家族への暴言等相談支援	5件
生活困窮相談支援	14件
生活困窮(外国人)相談支援	27件
その他の相談支	3件

**知的障害**

生活困窮相談支援	40件
金銭相談及び管理支援	17件
引きこもり支援	8件
その他の支援	4件

**身体障害**

制度等に関する相談	8件
-----------	----

(ひとり親相談支援)

生活困窮相談支援	7件
生活相談(外国人)	2件

(こども子育て相談支援)

生活困窮相談	5件
ネグレクト相談(町外)	4件

※ 相談者を宇都宮市へつなぐ

(その他の相談支援)

住宅ローンに関する相談	4件
難病に関する相談	7件

## 2) 心配ごと相談事業

民生委員、人権擁護員、行政相談員が相談役となり、毎週金曜日に福祉センターにおいて毎週金曜日に開催した。

開所日数 50日

相談件数 17件

相談内容 家庭問題4件 生計相談3件 財産相談3件 その他7件

相談傾向 家庭内(同居)のトラブル、生活苦の相談、近隣住民との土地の境界及び雑木林の管理のトラブル等が多くなっている。相談の共通点として世代が代わり、近隣との付き合い方の変化によって問題が発生することが多い。

## 7 県関連担当団体

### 1) 社会福祉法人 栃木県共同募金会 市貝町支会

#### ①赤い羽根共同募金の推進(募金運動 助成活動)

個別募金 1,497,200円(88自治会 2,495戸)

街頭募金 12,298円(道の駅での街頭募金)

法人募金 29,894円(21社)

学校募金 52,774円(小学校3校 中学校1校)

職域募金 10,465円(4箇所)

イベント募金 26,514円(市貝中文化祭・町民祭・図書館まつり)

個人募金 1,566円

その他の募金 6,846円

#### ②歳末助け合い募金の推進(募金運動 助成活動)

個別募金 995,400円(87自治会 2,488戸)

#### ③県共同募金会事務研修研究会(年6回)

出席者 担当職員

会場 とちぎ福祉プラザ

27.7/13~7/14 全国ミーティング(東京都)職員1名の参加

### 2) 日本赤十字社栃木県支部 市貝町分区

#### ①日赤社資募集の推進

【強化月間】5月1日~5月31日

個別募金 1,235,000円(88自治会 2,470戸)

その他の募金 30,000円

8 法人役職員研修事業	
1) 社会福祉協議会トップセミナー（県社協主催）	
出席者 会長 副会長	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
2) 社会福祉協議会管理職研修会（年2回）	
出席者 事務局長 事務局次長	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
3) ボランティアコーディネーター研修（年3回）	
出席者 担当職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
4) コミュニティワーク研究会（年4回） 福祉教育研究会（年3回）	
出席者 担当職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
5) 生活福祉資金担当者研修会（年6回）	
出席者 新任担当職員及び生活相談支援員 償還担当職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
6) 経理・労務管理関連研修会（年4回）	
出席者 担当職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
7) 県央地区災害訓練会議（年9回） 県主催災害訓練（1回）	
出席者 担当職員	
会 場 （会議）県庁及び宇都宮北高等学校 （訓練）宇都宮北高等学校	
8) 生活困窮者自立支援プロジェクト会議（年4回）※県社協より参加社協指名	
出席者 担当職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ	
9) 放課後児童支援員研修及び子育て支援員基本研修（年6回）	
出席者 学童保育担当職員	
会 場 TBC教育センター コンセーレ	
10) 社協職員初任者研修（年10回）	
出席者 新任職員	
会 場 とちぎ福祉プラザ （現場実習 塩谷町社会福祉協議会）	

9 福祉団体育成・支援事業	
[老人クラブ関連団体]	
1) いちがいシニアアクティブクラブ	（事業支援 事務支援）

[障がい者福祉団体]

- 2) 市貝町身体障害者福祉会 (事業支援 事務支援)  
3) 市貝町ひまわり会 (事業支援 事務支援)  
(栃木県手をつなぐ育成会市貝町支会)

[母子寡婦福祉団体]

- 4) 市貝町母子寡婦福祉会 (事業支援 事務支援)  
(町内ひとり親家庭支援含む)  
5) 栃木県ひとり親家庭福祉連合会 (事業支援)

[更生保護団体]

- 6) 市貝町更生保護女性会 (事業支援 事務支援)  
7) 市貝町保護司会 (事務協力)

[遺族会]

- 8) 市貝町遺族会 英霊殿護持会 (事業支援 事務支援)

[ボランティア関連団体]

- 9) 市貝町ボランティア連絡協議会 (事業支援 事務支援 事務協力)